

GIS エンジンに、MGEN2009 を採用したことにより、OS は、RedHat Enterprise Linux 4.7、Web サーバは Apache2.0、Web 開発アプリケーションは PHP5（若しくは Java）に限定される。尚、Apache2、PHP5、FDO（Feature Data Object）は、MGEN2009 のインストール RPM に含まれている。そのため、Linux OS にバンドルされている Apache2 のサービスは不要となり、停止する必要がある。データベースも同様に、MGEN2009 との動作保障がある、MySQL 5.0.27 を採用している。

また、開発に使用したクライアントのソフトウェア構成は、図 2 の通りとなる。

MapGuide Studio 2009	PHP Eclipse 1.1.3
Internet Explorer 6/7	Eclipse 3.0.2
OS (Windows XP SP2)	

図 2 ソフトウェア構成図（クライアント）

地図の見た目を定義するには、オーサリングツールである MapGuide Studio 2009 が必要である。開発ツールとしては、PHP Eclipse を使用し、Windows クライアント側から Linux サーバ側の PHP をリモートデバッグできる環境とした。ブラウザについては、Internet Explorer6/7 以外に、サーバ側に MGEN2009 の Update1 を適用していれば、Firefox も利用可能である。

4. 地図参照構成

開発に使用した地図参照構成は、図 3 の通りとなる。データソースには、SDFファイル及び MySQL テーブルを用いている。

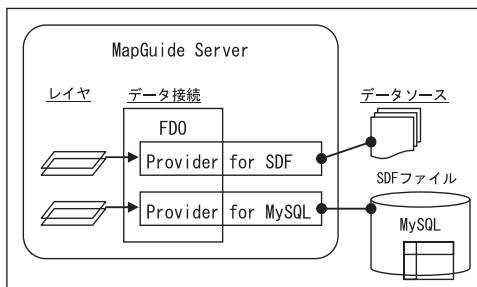


図 3 地図参照構成

5. 開発時の留意点

開発にあたり、以下の点について留意する必要がある。

5.1 文字コード

（製品仕様に UTF-8 の記載は見当たらなかったが、）MGEN2009 は、文字コードが UTF-8 しか扱えないため、OS、DB、プログラムファイル、HTTP コンテキストの全てにおいて、UTF-8 に統一した方が開発の効率がよい。

5.2 PHP → MySQL 接続

MGEN2009 のインストール RPM に含まれる PHP には、MySQL への接続オプション（`-with-mysql`）が付いていない状態でコンパイルされている。そのため、PHP アプリケーションで MySQL との DB アプリケーションを開発する際は、OSGeo.org より、MGOS 2.0.0 のソース（<http://download.osgeo.org/mapguide/releases/2.0.0/mapguide-2.0.0.tar.gz>）をダウンロードし、Oem ディレクトリに含まれている PHP をリコンパイルし、MGEN2009 の以下のディレクトリの入れ替えを行う必要がある。

